

KINEJUN

昭和51年11月15日発行 第695号(月2回1日15日発行)昭和
51年11月25日 第3種郵便物認可 昭和51年1月20日
国鉄首都特別扱承認誌 第2553号 通巻1509号

motion picture times

キネマ旬報

下旬号

11
1976



● 巻頭特集

King Kong

キングコング

● 「名犬ウォン・トシ・トン」研究 ● シナリオ「浪人街・天明餓鬼草紙」 ● 「河内のオッサンの唄」特集

製作費66億・全長13メートル・体重50トン

白熱の77年
やってきた大ヒーロー

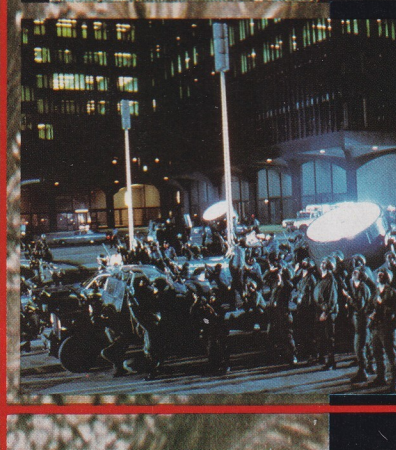
King Kong

キングコング

ディノ・デ・ラウ
レンティス製作

監督ジョン・ギラーミン
ジェンカ・ラング
ジェフ・ブリッジス

東宝東和配給

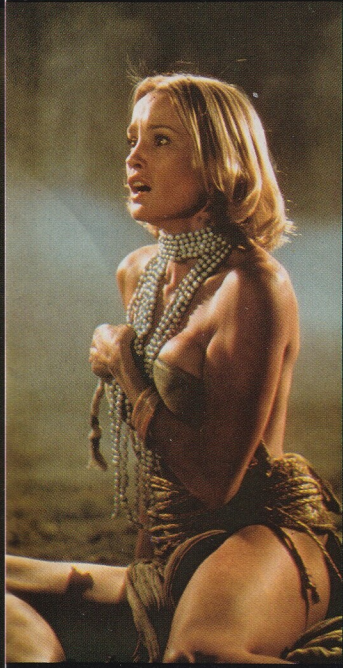




キング
コング



ジェシカ
・ラング



King Kongとジェシカ・ラング



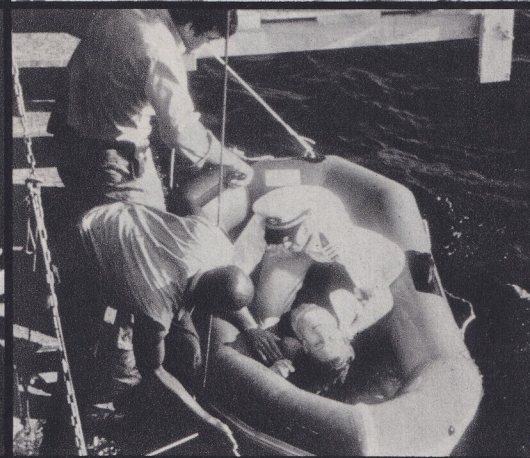
キングコング ニューヨーク上陸





かつてハリウッドが創造した最高最大のヒーロー「キングコング」が、77年の映画界を席巻すべく43年ぶりに復活した。製作費66億円を背景に、全長13メートル、体重50トンの、コンピュータによって作動する怪物である。1933年に製作されたご存知メリアン・C・クルーバーらの「キング・コング」は、南海の人類未踏の島で発見されたコングが生けどられ、ニューヨークで美女をさらって暴れまわるストーリーであったが、新作は、ロスアンジェルスからニューヨーク、そしてハワイへ大ロケーションを行ない、ラストは前作のエンパイア・ステート・ビルに代って、超モダンな世界貿易センター・ビルとなり、壮烈なアクション・シーンをくり広げる。すでに映画化権争いから、大キャンペーン作戦と、話題は充分に盛り上って来ている。はたして世界を、そして日本を、どれほどに賑わしてくれるか、期待の超大作であろう。製作者はイタリアからアメリカへ進出して「バラキ」コンドル「リッツステイック」と次々に話題作を生んでいる国際的大プロデューサーのデイン・デ・ラウレンティス。監督は「タワーリング・インフェルノ」のジョン・ギラーミン。撮影はリチャード・クライン。特撮には「JAWS・ジョーズ」のスタッフが協力。脚本はロレンゾ・センブルJR。音楽は「007」や「野性のエルザ」のジョン・バリーとベスト・スタッフが揃い、またコングにさらわれる美女にはファッションモデル出身の新人ジェシカ・ラング、若き人類学者に「ラスト・シヨ」のジェフ・ブリッジス、チャールズ・グロディンら。今号特別グラビアと宇田川幸洋氏の特集記事を、どうぞご参照下さい。

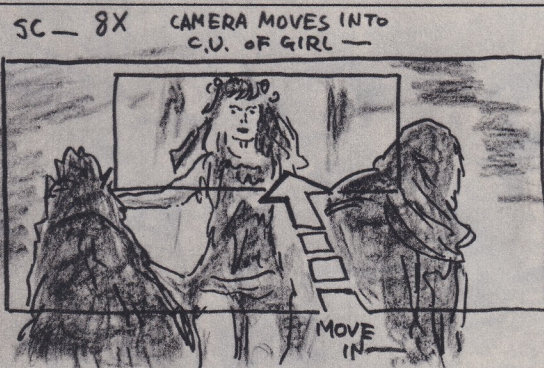
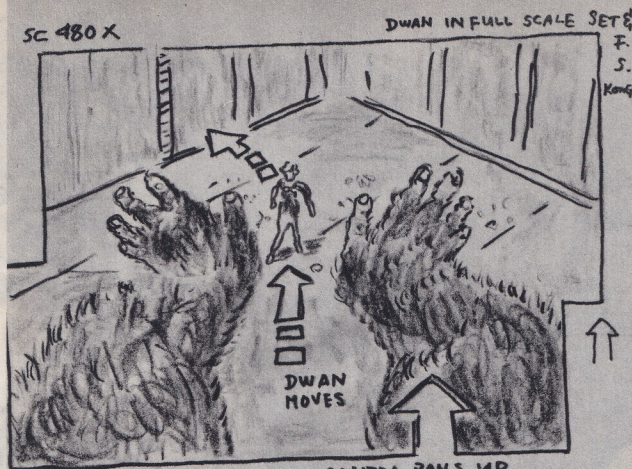
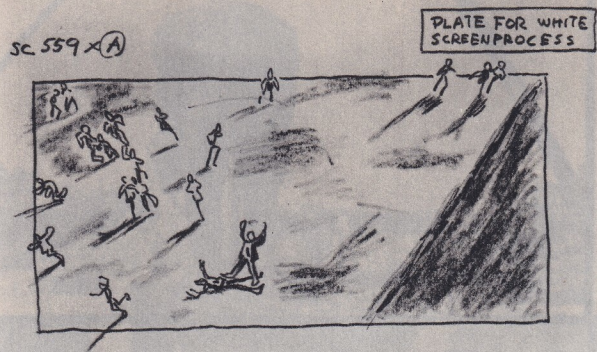




暴れだした

キングコング



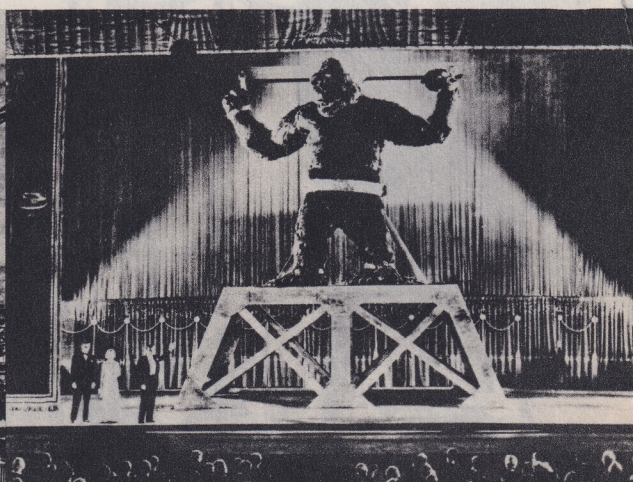
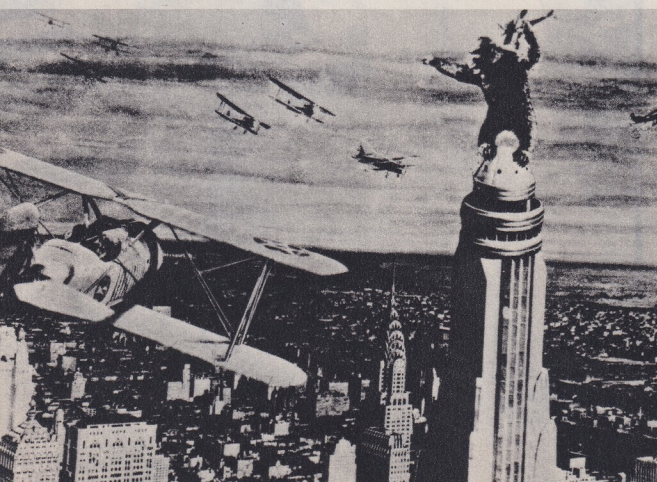


「キングコング」

1933年の

の絵コンテ

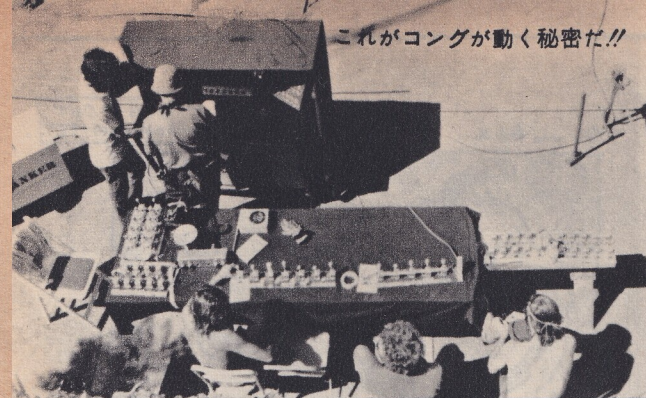
オリジナル版



〈巻頭特集〉

夢とロマンをたずさえて「キングコング」がやって来る！

宇田川 幸洋
(Yukihiko Udagawa)



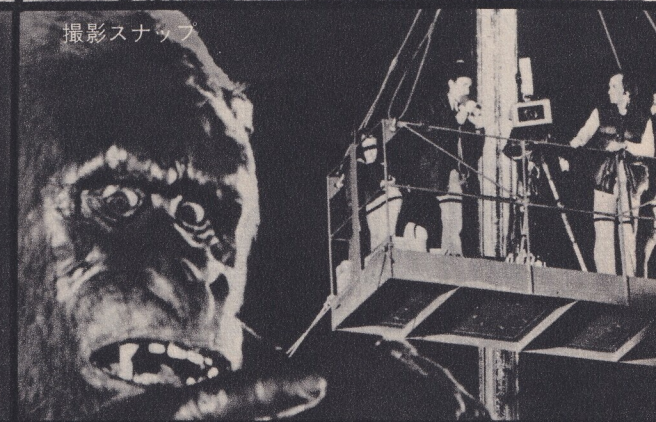
これがコングが動く秘密だ!!



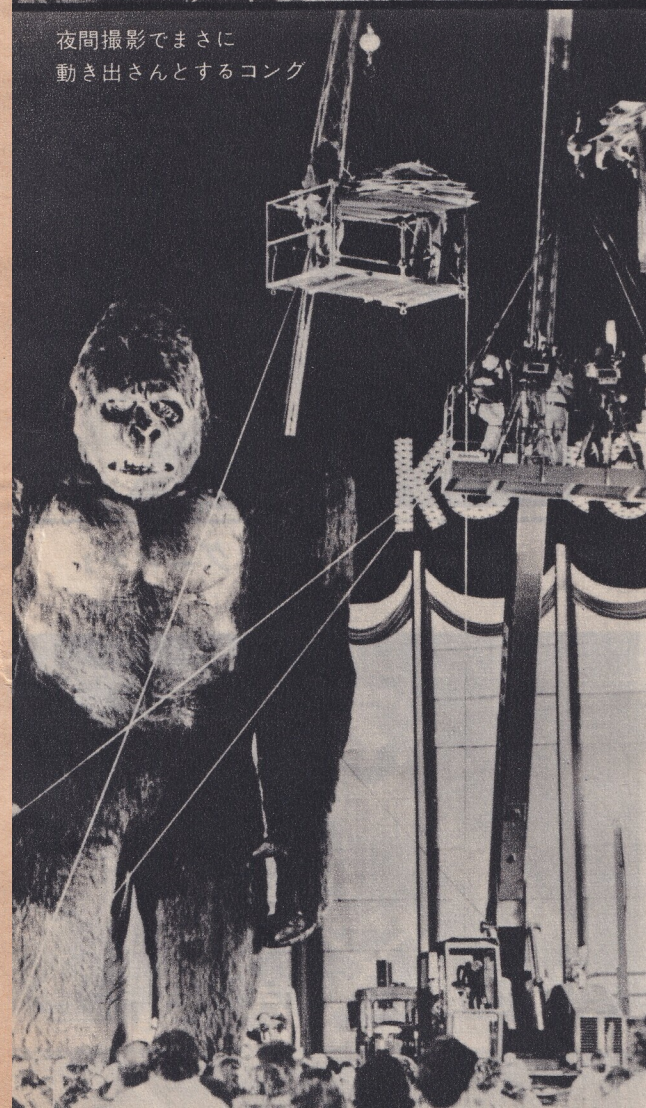
クレーンに吊り下げられたコング



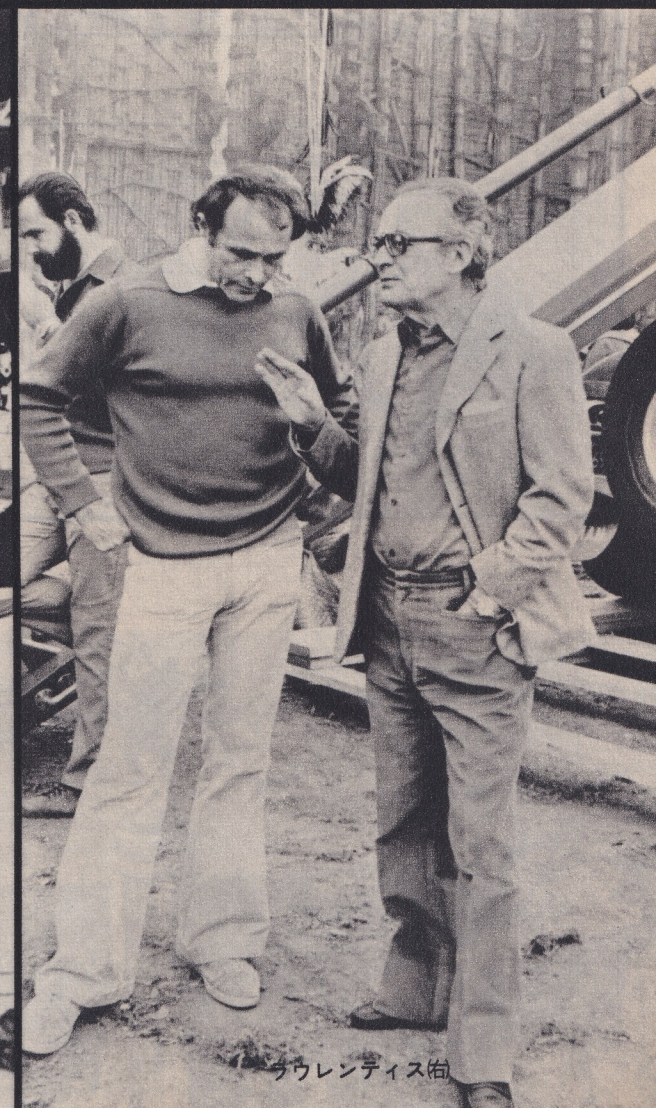
監督の
ギラミン



撮影スナッフ



夜間撮影でまさに
動き出さんとするコング



ラウレンティス役

恐怖の レッスン

「何か得体の知れないものが近づいてくるのを感じて、きみは視線をゆっくりと上にあげていく。そして、きみの眼は、ついにそれをとらえた。恐ろしい！だが、目を離すことができない。きみの視線は、それのとりこになる。きみの眼は、ますます大きく見ひらかれていく……とうとう、きみは叫ぶ。体じゅうの力をふりしぼるように、悲鳴をあげるのだ……！」

白いイヴニング・ドレスをまとった彼女は、男の言うままに動き、上方を見上げて、そこには存在しないもののために、恐怖に美しい顔を歪める。恐怖に歪められた彼女の顔は、なおさら美しく、輝きを放つ。この美しい恐怖の表情と、一音節に圧縮された女性的なもののへの自己頌歌——悲鳴とは、これから彼女を襲う、来たるべき恐怖の正体のために、こうして予めテストされたのだった。

そう、これは彼女のカメラ・テストなのである。

彼女の名はアン・ダロウ。彼女にディレクションを与えていた男は、カール・デナム。

彼らは、これからスマトラ方面の、地図にも載っていない小島——^{スカル・アイランド}、^{スカル・アイランド}に映画を撮りにいくところである。髑髏島で何に出くわすのか、彼らにはまだわかっていないのだが、往きの船上でのこのカメラ・テストは、すでに鮮かに、キング

グ・コングとの出会いを予告しているのである。

これは、言うまでもなく、一九三三年に製作された、オリジナル版「キングコング」の中の一シーンである。

新版の「キングコング」には、こういったシーンはない。それは、こんどの主人公たちが映画製作のために髑髏島に行くのではない、という物語の設定の変更にもよるが、キングコングというモンスターが、あまりにもひろく知られているため、映画自体の中でもう一度恐怖のレッスンをくり返す必要はない、という理由にもよるだろう。

いまや、世界中で多くの人が、ディーン・デ・ラウレンティスが製作した新版の「キングコング」に出会おうのを待っている。

一九三三年には、「キングコング」は正に海のものと山のものとも知れぬ「怪物」であつたはずだが、今では、ニューヨークの摩天楼によじ登ったこの巨大な猿のことを知らない人はいないといっている。

しかし、オリジナル版の封切から四十二年たち、日本での戦後のリバイバル公開（五二年）からも二十四年たっている今日では、摩天楼によじ登った大猿というイメージだけはクッキリとしているが、その物語の内実は、曖昧にしか人々の頭にのこっていないか、あるいはまったく知られていない。

キングコングは如何にして摩天楼の頂

公三人と、船長その他をのせた船は、港を出て行く。

異境探険映画のプロデューサーという、カール・デナムの役柄は、つい、この映画の共同製作・監督者であるメリアン・C・クーパーとアーネスト・B・シェドサック自身に重なって見えてしまう。

この二人は、アジア、アフリカ、中近東の長篇ドキュメンタリー「地上」（二六年）、猛獣映画「チャング」（二七年）を共同製作・監督している。これ以後、怪獣映画は数あれども、映画を撮りに行つて怪獣に出くわすという映画は、ほかにないのではないかと思う。この物語の発端は、作者たちの身近から生まれた発想だと思えるのである。事実、クーパーが、巨大化したゴリラが暴れまわるという企画を考えたのは、RKOの「四枚の羽根」（三一年）を監督しにアフリカに行つたとき、ゴリラを見たのがきっかけだといわれている。

ストーリーは、クーバーとエドガー・ウォーレスが書き（これは、現在、数社競作で邦訳が出版中）、特殊効果を、一九二五年の「ロスト・ワールド」で、古代の巨大生物を活躍させたウィリス・H・オプライエンが担当した。これは、いま見てもみごとなミニチュア・ワーク、人形アニメーション、オプチカル合成である。その技術や映画製作上のいきさつは、「The Making of King Kong」より本に詳しく。

●スタッフ

製作	ディーン・デ・ラウレンティス
監督	ジョー・ゴッド
脚本	フレデリック・ニム
製作指揮	フレデリック・ニム
撮影監督	ジョー・ゴッド
製作総務	ジョー・ゴッド
プロダクション	ジョー・ゴッド
班マネジャー	ジョー・ゴッド
ニューヨーク	ジョー・ゴッド
第1助監督	ジョー・ゴッド
第2助監督	ジョー・ゴッド
第2班監督	ジョー・ゴッド
第2班助監督	ジョー・ゴッド
プロダクション・デザイナー	ジョー・ゴッド
特殊効果デザイナー	ジョー・ゴッド
カメラ操作	ジョー・ゴッド
美術監督	ジョー・ゴッド
セット・デザイナー	ジョー・ゴッド
サウンド	ジョー・ゴッド
イラストレーター	ジョー・ゴッド
ミニチュア・デザイナー	ジョー・ゴッド
特殊効果	ジョー・ゴッド
撮影効果監修	ジョー・ゴッド
衣装デザイナー	ジョー・ゴッド
スクリプト管理	ジョー・ゴッド
小道具	ジョー・ゴッド

上に立ち、そして転落するに至ったか？

新版のプリントは、まだ完成していないので、残念ながら「分析採録」は不可能だが、撮影台本（第二稿）、絵コンテ、向こうでラッシュや撮影現場を見てきた人から聞いた話、等々を総合しながら、全体を想像していきたいと思う。カール・デナムとアン・ダロウが、コングに遭遇する前に恐怖のレッスンをしたように、ぼくたちもその実体を想像して新しいコングに対する期待を昂ぶらせようではないか。

三三年版 の コング

先に書いた船上のシーンを、昨日見て

きたように書けたのは、ぼくの記憶力がいいからではない。じつは、先日、機会があつて東和の試写室で、オリジナル版「キングコング」と、新作のほうの90秒の予告篇を見せてもらったからである。90秒の予告篇は、はじめてコングがジャングルの奥から姿を現わし、祭壇にしばらくつけられた金髪的美女ドワンと出会うシーンであつた。

旧作の同じシーンに比べると、カラー・ワイドの新作は、セットの規模も段ちがいに大きく、カット割りは当然、今日風に細かくて、なめらかな流れをもっている。

三三年版は、ある意味で「手づくり」のよさを感じさせる映画だ。

キングコングが動き出す

三三年版のコングが、アニメ合成によるミニチュア・ワークの精華であるのに比べ、七六年版は、フル・スケールの巨大な機械仕掛けのコングを売り物にしている。コングの人形（？）の製作費だけでも、すべてのスケールのものを合わせて9億円といわれる。

三三年版「キングコング」が、メリアン・C・クーパーとアーネスト・B・シェドサックという二人の映画人の、それまで歩いてきた道の延長に湧いて出たアイデアだったとすれば、七六年版コングは、大プロデューサー、ディーン・デ・ラウレンティスの頭にどのようにして閃き出たのだろうか？

七月二七日に、本誌白井佳夫編集長、黒井和夫、原田真人の各氏が、ラウレンティスのオフィスを訪ねてインタビューした際のテープを、ここに採録してみよう。

ラウレンティス語る

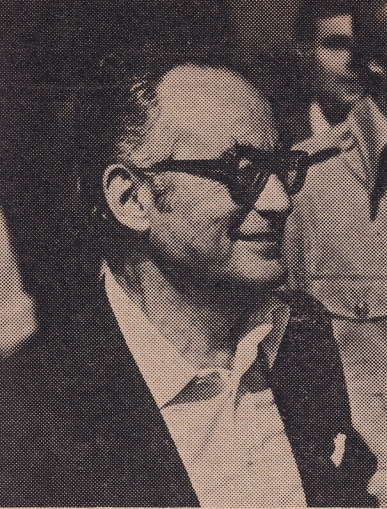
母国イタリアにおいて、古くは「にがい米」「河の女」「カピリアの夜」等の名作をプロデュースし、近年では国際的な活躍ぶりです。ついにここに、三三年はハリウッドにすわって「シンジケート」

「狼よさらば」「セルピコ」「マンディンゴ」「コンドル」「リップスティック」といった、アメリカのアクチュアルな問題をあつかったアメリカ映画をたてつづけに放っている、56歳のラウレンティスは、コング・サイズデスクの向こうで、インタビューに答えた。

Q 「キングコング」リメイクの動機は？
A 簡単なことさ。客をおどろかせることができるからだ。今日の観客は、あらゆる年齢層にわたってたのしめるようなものを求めている。そして、同時に、TVでは見られないようなものなのだ。40フィートもあるコングは、TVでは実現できっこないビッグ・スペクタキュラー・シーンであり、ビッグ・エンタテインメントなんだ。

Q オリジナルを初めて見たのはいつですか？
A 少年の頃だった。

Q こわかった？
A 少しもこわくはなかったよ。あのね、これはそもそ、わたしたちがニューヨークで暮らしていたときに、十四歳になる娘（フランチェスカ）を、その頃は十二歳だったんだけど、わたしは毎朝、学校に送って行っていた。その娘が、わたしの部屋に貼ってあつた



ディーノ・デ・ラウレンティス

「キングコング」のポスターを見て、この映画を見たい、と言いつたのさ。それで、わたしは、現在の観客たちはこれを見たがるだろうな、と思っただ。で、何人かの教養ある女性たちのところに行つて尋ねてみた結果、やはり、見たいと言う。ほかの人たちにも訊いても、同じ答えだった。

予算がオーバーして、アタマを痛めてるんじゃないですか？

A 千六百万ドル(約四十八億円)の予定が二千二百万ドル(約六十六億円)にまでなつてしまった(註・その後さらに増加し、二千五百万ドルといわれる)。だが、これはミスによるものではなく、リアリティを求めて、撮り直しを重ねたためだ。「キングコング」のタイトルだけでも、第一週はワット客がくるかも知れないが、作品の質がよくなければ、二週目からバツタリこなくなつてしまふ。いい映画だという口コミがひろがるのが大切なのだ。

Q 日本のジャーナリストたちは、撮影がいつ終わるのか心配しているが……

A 初号がいつ仕上がるかはわからないが、クリスマスの世界一斉公開には間に合わせる。十二月十七日から二十五日の間に、アメリカ国内で一千館、海外で一千五百館で封切られる。日本では百六十館だ。上映時間は二時間十五分ほどになる。

三三年版とちがい、こんどの「キング

「キングコング」は記録破りのヒットを期待されている。『JAWS・ジョーズ』の超大作なのである。だが、それにしても、ラウレンティスがこの大作を企画するきっかけとなったのが、十二歳の娘の発言だったとは、じつにおもしろい。クーパー・シエドサックが「冒険」の側からオリジナルのキングを発想したのに対し、ラウレンティスは「女」の側から、キングのリメイクを発想したとはいえない。か。じつさい、脚本を読んでみると、オリジナル版よりもこの「エイブ・ミーツ・ガール」ストーリーの中でヒロインが占める役わりが大きくなっているといえるのである。

ちなみに、十四歳の娘フランチェスカは、ラウレンティスと、夫人でありイタリア映画の大女優でもあるシルヴァーナ・マンガノとの間に生まれた子である。長男のフェデリコは、二十四歳で、「キングコング」のエクゼクティブ・プロデューサーとして父に協力している。

三三年版「キングコング」のヒロイン、フェイ・レイは、あまり台詞らしい台詞もなく、ただひたすら悲鳴をあげるだけという印象が強く、「悲鳴女優」などといわれたが、こんどのヒロインで、ドワン役に選ばれたジェシカ・ラングは、ピアンコ・エ・ネーロ&マサト・ハラダのインタビュの際に、「あたしは、5回し

ハッピー・キングコング・イヤーを迎えるよう祈ります」という文字を流す。この費用は六十万ドル。

七六年元旦、ニューヨーク・タイムズ紙に「ハッピー・キングコング・イヤー」と題する全面広告を載せ、ラウレンティスはこう宣言した。

「ポスト・ジョーズ」は、わたしたちの超大作『キングコング』となるだろう」

このときには、もう裁判の決着を待たずに一部の特撮や、ハワイの実景ロケが進められていた。もちろんキャストイングも決まっていた。

ヒロイン、ドワンにジェシカ・ラング。三三年版ではブルース・キャボットが演じたドリス・コルに当たる古生物学者ジェシカ・プレスコットに、ジェフ・ブリック・ロバート・アームストロングが演じたデナムに当たる石油会社のモレル社員フレッド・S・ウィルソンに、チャールズ・グロディン。

ジェシカ・ラングの役には、一時、バブラー・ストライサンドも考えられていたそうだけど、バブラーのあげる悲鳴では、コングもたじたじという感じがしませんでした。

ラウレンティスは、プロダクション・デザイナーのマリオ・チアリ、特殊効果デザイナーのカルロ・ランバルディ、ミニチュア・デザイナーのアルド・ブッチーニその他のスタッフをイタリアから呼びよせた。

歴史を曲げる行為

キングの製造には、アメリカとイタリアの混成スタッフ約二百人があつた。混成であるための行きちがいから、右手を二本つくって左手をつくらなかつたなどという、おかしいミスも生じた。

特殊効果のグレン・ロビンソンは、「大地震」「ヒンデンブルグ」等を手がけたベテランである。

撮影のリチャード・クラインは、近年リチャード・フライシャー監督の作品で、すばらしい画調を見せているカメラマンである。ラウレンティスが製作した「マインディンゴ」もクラインのすぐれた仕事の一つだった。

監督ジョン・ギラーミンについては、多言を要しないだろう。ラウレンティスは、「彼の作品では『タワーリング・インフェルノ』を見た。プロフェクションアルな、すぐれた腕をもったディレクターだ」と言っている。

ところで、ハワイ・ロケに行つた撮影班五十人は、カウアイ島のナ・パマ海岸を闊歩島に見立てての実景ロケを了えて、七六年三月には帰米するのだが、その帰路、オスロを出港し中東をまわってアメリカ西海岸へと航行して行くスーパー・タンカー、スザンヌ・オンスタッド号をもフィルムに収めてきた。これは、篇中、コングをのせてつれ帰るスーパー・タンカーという設定である。

ハワイ・ロケを指揮したのは、第一助監督のカート・ニューマン。彼は、七五年に「キングコング」の原作の「海流の中の島々」の助監督をつとめ、カウアイ島の地勢には詳しかった。カート・ニューマンといえは、四〇年代後半に「魔境のターザン」「ターザンと豹女」「ターザンの怒り」の三本のジョニー・ワイズミラーのターザン映画をつくり、また、ランドル・スコットの「群盗の宿」、オーディ・マーフィの「テキサスから来た男」をつくつた監督として名前を記憶している方もあると思うが、彼はそのジュニアである。シニアは、五八年に没した。ジュニアは、これまでに「ラヴド・ワン」「アメリカ大陸作戦」「哀愁の花びら」「ナタリーの朝」といった映画の助監督をつとめている。

四月には、「ニュー・キングコング」なるタイトルの映画をつくと発表したが、キー・インタナショナル社を相手にRKOが訴訟を起こした。ラウレンティスも、「コング」の名は他の映画には絶対に使用を許さない旨宣言。

同じ月に、エンパイア・ステート・ビル職員の六名と雇われた俳優一名が、エンパイア・ビルの八十六階展望台で、コングの縫いぐるみを着てデモ。コングを国際貿易センター・ビルに登らせるなどは「歴史を曲げる行為」だというのが、彼らの主張だった。

五月には、ジェシカ・ラングがコングの手の中で、機械操作の誤りのために大

か悲鳴を上げていないわ」と言っている。予告篇で彼女がコングにさらわれていくシーンでも、キラーキラー声を立てるだけでなく、「NO!」と、意味のある単語をも叫んでいたのが、ぼくには妙に印象的だったし、脚本を見ても、ただ受身にコングから追いかけるだけでなく、能動的にコングとわたり合うシーンなどもある。

グラビアでごらんの通りの金髪美女のジェシカ・ラングは、二十三歳。ミネソタ州の生まれ。フランス系の血筋。一家は州内を転々と移り住んだそう。ミネソタ大学を卒業後、二年間パリに遊んで、パントマイムと演技を学んだ。先生はエティエンヌ・ド・クルール。アメリカに戻

映画はまったく初めてだが、それほど難しくはないと言つてのけている。

「モデルは、カメラを意識してふるまわなくてはならないんだけど、映画はカメラを意識しないようにしなくてはいい。そのちがいがね」と彼女は語っている。

彼女がヒロインに選ばれたのは、昨年

編集監督	ラルフ・ウィルソン	ラング
ボスト・プロダクション管理	ボブ・コック	ジェシカ・ラング
会計監査	デリー・マシュー	ジェシカ・ラング
会計監査助手	デリー・マシュー	ジェシカ・ラング
建築担当	デリー・マシュー	ジェシカ・ラング
セット・デコレーター	ジョン・フアン	ジェシカ・ラング
女子衣装係	ファニー・アール	ジェシカ・ラング
男子衣装係	ファニー・アール	ジェシカ・ラング
キー・グリップ	ロバート・ベーム	ジェシカ・ラング
キングコング技術顧問	リック・ウィリアム	ジェシカ・ラング
スタント担当	リック・ウィリアム	ジェシカ・ラング
調査/ロケハン	ジョイス・セル	ジェシカ・ラング
輸送担当	ジョー・ソーン	ジェシカ・ラング
製作進行	ジョー・ソーン	ジェシカ・ラング
プロデューサー秘書	ジョー・ソーン	ジェシカ・ラング
監督秘書	ジョー・ソーン	ジェシカ・ラング
宣伝	ブルース・バー	ジェシカ・ラング
スチル	エリオット	ジェシカ・ラング

●キャスト	ラング
ドワン	ジェシカ・ラング
プレスコット	ジェシカ・ラング
ウィルソン	ジェシカ・ラング
船長	ジェシカ・ラング
バグリー	ジェシカ・ラング
カーナハン	ジェシカ・ラング
ティモンズ	ジェシカ・ラング
ガルシア	ジェシカ・ラング
ベルコン	ジェシカ・ラング
ベボ	ジェシカ・ラング

ケガをした、というニュースが一部に流れたが、これは誤報だった。もともと、彼女、なれないはじめのうちは、機械仕掛けの大きな手に、なでられたり握りしめられたりで、青アザだらけだったそうだが。

姿を現わしたコング

六月十四日、ニューヨーク、国際貿易センター前に、ついに巨大なコングが姿を現わした。ラストのビルから転落したコングの、その死体のロケ撮影であった。発泡スチロールに馬の毛を植えてつくられたコングの死体は、全長三十三フィート（十メートル）、製作費は八万五千ドル（約二千五百五十万円）。ラウレンティス・プロは五千人のエキストラを募集したが、野次馬が予想外に集まり、約二万五千人の大モップ・シーンを撮影することができた。このコングは、ハリウッドからニューヨークまで、十トン積みトラックで大陸横断して陸送されたが、そのトラックの横腹には「キングコングがやって来る！」と大書され、同時に宣伝キャンペーン旅行にもなっていた。

この頃から、パラマウント社の電話には、すべてに「キングコング」と聞こえるチャイムがセットされた。東宝東和では、六時の退社時刻に「ガォーッ」というキングコングの声を鳴らしているそうだが、残念ながら、ぼくは六時にいあわせたことがないので聞いたことがない。

八月になって、ようやくコングの「本体」が姿を衆人の前に現わすことになった。世界中から二千人のジャーナリストや配給関係者がカルバー・シティの MGM ス튜디오に呼び集められ、そのロット2（オープン・セット用の敷地）で、シェイ・スタジアムのシーンが撮影されたのだ。見世物にされたコングが、鎖を切って暴れ出すシーンである。

撮影は、十一、十三、十七、十八、二十日の五夜にわたって行なわれた。どんな情景であったかは、あとで詳しく書くが、撮影を見に行った東宝東和の宣伝室長、吉村信次郎氏もそのスケールの大ききにはおどろいたようだ。

なにしろ、コングの身の丈は、四十フィート（吉村氏の談では、四十五フィート）、体重は六・五トン。胸幅が二十フィートで、腕の長さも二十フィート。歩幅が十五フィート。水圧式の動力で動くが、体の各部を動かすために体内に張りめぐらされた水圧ホースが、延べ三千百フィート、電線が四百五十フィート。操縦器には五十のレバーがついていて、これを六人の操縦員が動かす。これ一体に、コング製造費九億円のはとんどが当てられているといっている。

体には馬の毛が植えられているのだが、吉村氏の印象によると、胸のあたりの毛はフサフサと長く、風に揺れるようだが、下半身の毛は剛い感じにつくってあるという。

このコングは、頭、両腕、上半身、下

半身の五つの部分に分解してもつかえるようになっていて、頭部は五種類、腕は二対の、用途によるスベアがある。

この撮影には、ブレイボーイ誌のヒュー・ヘフナーやライザ・ミネリも見学に現われ、また、このときかどうかかわからないが、イングマル・ペルイマン（彼はラウレンティス製作でリヴ・ウルマン主演の「Face to Face」をつくり、四月に公開している）が訪れて、セットの巨大さにビックリしたというエピソードがある。

ロサンゼルス市民一万二千人をエキストラに駆り出したこの撮影は、「キングコング」撮影のハイライトという以上に、ビッグ・イベントだった。このときに限りコングの「本体」をオープンにし、あとはセットの写真撮影も一切禁止という秘密主義は、ラウレンティスの「作戦」だった。製作開始前からラウレンティ

美女とコングと文明と

さて、いよいよ、物語の紹介にはいっていきこう。

オリジナル版では、主人公たちは映画を撮るために髑髏島に向かったわけだが、新作では、石油発掘のためとなっている。

ベトロックス・コーポレーションのウィルソン（C・グロディン）が指揮を

いるところを救出されるのである。そのときの「彼女は、肌もあらねな身体にびったりとついたイブニング・ドレスを着ている」。

ドワンの語るところによれば、香港映画に主演するため、彼の地に向かう途中、船が嵐で難破したとか。まるで三三年版から、途中で横にそれて新版に漂着したような設定だ。

航海中、船員たちが人梯子をつくって、船腹の窓から、シャワーを浴びている彼女を垣間のぞき見る、というお色気サードビスもある。

船が髑髏島に近づくと、リーダーで霧に包まれた島の地形を探るのだが、そのとき、何か巨大な動くものの影がリーダーに映る。ラッシュを見た吉村氏の話だと、三三年当時にはなかった、このリーダーが、サスペンスを高める小道具として、うまくつかわれているとのこと。あとで島内のコングを追跡する際にも、船のリーダーとの連係プレーという手がつかえるのである。

島に上陸してみると、たまたま満月の夜で、島の神コングに捧げる人身御供の花嫁の「結婚式」の祭儀が行なわれている、という設定はオリジナル版とまったく同じ。土人たちの住んでいる所とジャングルの隔てる扉は、高さ四十七フィート、長さ約五百フィートのものが建造された。土人のエキストラは三百人。

一行はその夜、船に引き返すが、ドワンが土人たちにさらわれるので、救出の

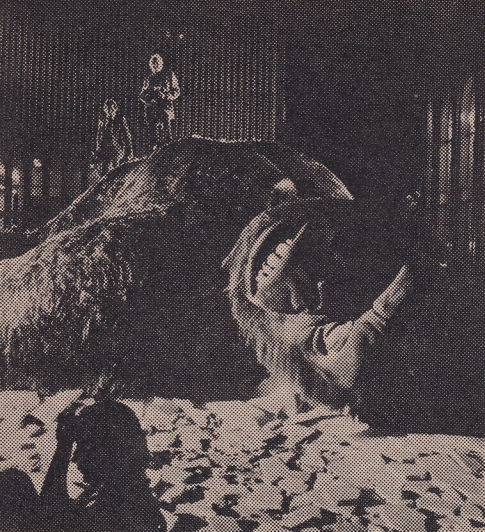
ために再び島にのりこむ。

ドワンは、コングの花嫁の衣裳を着せられ扉の向こう側の祭壇につながる。そして、初めてコングが姿を現わし、「NO！」と叫ぶ彼女をのひらにのせてさらっていく。

プレスコットと船員たちの追跡。ここですてゴザウルス、ティラノザウルスが次から次へと、「ロスト・ワールド」の二次会のように現われてハラハラさせるのだが、今回はそれを省いて、コング追跡にしぼってある。美女を横どりしようとする翼手竜も登場しない。コングが谷にわたっている丸太を揺すって、追跡隊を谷に落とすのと、巨大な蛇が出てきてコングと闘うのだけが同じ。

コングが、泥まみれになったドワンを滝ツボで洗い、自分の吐く息をドライヤーにするエロティックなシーンが設けられている。それどころか、コングは、のどをゴロゴロ鳴らして、彼女に愛を囁くのだ。

「コングの指が下りて来て、再び彼女を撫でる……前へ、後ろへ……服の一部がむしりとられる。彼女の口が「いや」と言うように開くが、声は出ない。この状況の言いようのない感覚に酔いしれているようだ。コングはおどろくほどやさしく器用な動作を見せる。彼はドワンの上半身をほとんど裸にしてしまった。彼女の羽根となめし皮の衣裳はちぎれて、下半身に落ちかかっている。コングの黒



ビルから転落したキングコング

キングコングの花嫁

さて、この「冒険者号」に、美女ドワンが加わるわけだが、彼女は救命用ゴムボートの上で気を失ったまま漂流して

い毛が彼女の胸を横切る……彼女の目が
コングを見上げる。その目は、女を見る
白日夢を、幻想を映し出している……」

プレスコットがコングを追跡し、彼女
を救出しているうちに、ウィルソンは石
油のたまっている池を見つめるが、これ
はまだ完全に石油化してなく、あと一万
年ほど寝かしておかないとつかえないこ
とがわかる。この発掘にクビがかかって
いる彼は、代わりにコングをつれかえつ
て、ペトロックス石油のために利用しよ
うと考える。その言い草がふるっている。

「エッソの広告キャンペーンをおぼえ
てるか?」あなたの車に虎を^{ヒョウ}だ。あ
れは当たり前だった。たかが張り子の虎
で、あれだけやったんだ……」

コングがドワンを愛撫するのは、岩山
の頂の巣窟なのだが、満月をバックライ
トにしたこの岩山のシルエツトが、マン
ハッタンのビル街のシルエツトに酷似し
ていることが、ドワンとプレスコットの
「見た目」で強調される。これが、最後
にコングが貿易センター・ビルに登る伏
線となっているのは、三三年版になかつ
た合理性である。

一方、ウィルソンはコング生捕りの一
計を案じ、必要な機材を、スラバヤのペ
トロックス支社に無電して急拠、空輸さ
せる。

翌朝、ドワンとプレスコットを追って、
コングがやってくる。門をプチ破るコン
グ。その前には、ウィルソンがブルドー
ザーで掘らせた落とし穴が口をあけてい

る。そして、コングが落ちる直前に、爆
薬をつかつて大量のクロロホルムを穴に
流しこんであったのだ。さすがのコング
も正体をなくす。三三年版ではこれが、
ガス弾だった。

コングを運ぶのには、排水量四十七万
六千二百九十二トン、全長四百十二メー
トルというスーパー・タンカーが使用さ
れる。三三年版にはなかったスペクタク
ルである。

この帰りの航路、命がけの冒険で心を
許し合ったドワンをプレスコットは、月
夜の甲板で抱擁、キスを交わす。そのと
きドワンの白いスカーフが、コングの収
容されているタンクの中に落ちる。彼女
の匂いを嗅いだコングは荒れ狂い、床や
壁をドカンドカンと叩く。ドワンがたし
なめると、彼はもう一度壁を叩いて、震
動で彼女をタンクの中に落とし、その手
でうけとめると、自分の前に置く。

「ドワンは巨大な脚の間に立つ。特に
目をひくことは何もないが、性の営みを
彷彿とさせる光景である。……コングは
ただ見つめ、荒い息を吐くだけである……」

なんともエロな光景であるが、黒井和
男氏がハリウッドでわざわざ確めたきた
ところによれば、コングには性器はとり
つけられていないそうである。

ああ、あたしの コング……

さて、場面は、いきなりニューヨーク

のシェイ・スタジアム（球場）のにぎや
かなアトラクション風景に移る。空には
宣伝用の飛行船が飛び、バトン・ガール
がパレードし、ロック・バンドがガンガ
ン演奏する派手な光景。三三年版ではブ
ロードウェイの舞台からコングを見せよ
うという趣向だったが、こんどの方が、
バカバカしい大騒ぎだけに現実味があ
る。

グラウンドの正面に、髑髏島の塀とそ
っくり同じ物がこしらえてある。これは
同じセットをそのまま流用したそうだが
ら、そっくりなのは当り前。しかし、そ
の上には「KONG」のネオン・サインが
とりつけてある。

門があげられると、高さ四十七フィ
ートの巨大な給油塔が出現。もちろんペ
トロックスのそれを拡大したものだ。ヘリ
コプターがこれをもち上げると（実際は
クレーンでもち上げて撮影した）中から
鎖につながれたコングが姿を現わす仕掛
け。

三三年版と同じく、カメラマンたちに
フラッシュを浴びせられ、変なポーズを
とらされているドワンを見て、コングは
怒り、鎖を引きちぎって暴れ出す。

さあ、それからはニューヨークの街を
暴れまわるコングの大スベクタクルだ。
ドワンを求めて彼は荒れ狂うのである。

警官を噛みちぎったり、間違えて拾い上
げたドワンに似た娘をボーイと投げ捨て
たりという、三三年作のアメリカ国内版で
はカットされたというシーンも、こんど

はちゃんと入れてある（かどろかは完成
してみないと実はわからないが）。

ついにドワンを見つけたコングは、彼
女をつかみ、ふるさとの岩山を想わせる
貿易センター・ビルに登っていく。空軍
のヘリコプターが三機でコングを襲う。

ドワンは「あたしを放しちやダメよ、放
すと射たれてしまうわ!」と叫ぶが、コ
ングはわが身よりも彼女をかばって屋上
に下ろし、自分は機銃弾を胸にうけて、
落下していくのである。

三三年版のラストには、デナムの「飛
行機ではない。野獣を殺したのは、美女
さ」という名文句があったが、今回はな
い。しかし、ここに至るまでの描写の細
やかさと、ドワンの最後の絶叫——「抱
いて! あたしを抱いて! ああ、コン
グ……あたしをいつまでも抱いていて!!」
は、それを描なつて余りあることだろう、
というのが脚本を読んだばかりの感想であ
る。

ジョン・ギラーミン監督は「コングは
単なるファイターではなく、ラヴァー（恋
する男）だ。この物語のベースは、ゴジ
ック・ロマンであり、グリム童話である。
これはハラー・フィルムではなく、ロマ
ンティック・ピクチャアなのだ。そして、
ここにはユーモアもたっぷりとりこま
れている」と語っている。

キングコングは「文明」と対決し、破
れ去っていく野獣だが、彼は人間と敵対
する野獣であるよりも、むしろ人間の中
に潜む野獣なのである。